

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104117		
法人名	社会福祉法人 豊友会		
事業所名	グループホーム喜楽園		
所在地	山口県下関市豊田町大字中村819番地		
自己評価作成日	平成 27年 3月 26日	評価結果市町受理日	平成27年8月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年4月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「共に支え、共に生きる」の理念のもと、優しい言葉掛けと思いやりの心を念頭に、入居者様一人ひとりがその人らしく、今を大切に楽しい時間を過ごして頂けるようサービスの提供を行っています。初年度から続けている月1回の調理やおやつ作りでは、入居者様と職員の一体感も生まれてきており、入居者様、職員、共に楽しんでます。
入居者様一人ひとり「出来ること」が異なる為、年1回行う外出では入居者様と職員でしっかり話し合い、行き先や食べたいものを決定しています。また、バイキング料理や忘年会では、ご家族を招き、家族との絆も大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりのその日の希望に添ってドライブに出かけられたり、月1回の調理日には、利用者と職員と一緒に献立を立てられて、ミネストローネやけんちょうをつくられたり、おやつづくり(ホットケーキ、みたらし団子、りんごのコンポートなど)をしておられる他、利用者の趣味を活かすために卓球台を購入されるなど、職員とおして話し合いながら一緒にできる楽しみごとや活躍できる場面づくりの支援をされています。前回の評価結果を受けて目標達成計画を立てられ、火災や水害時の避難訓練に地域の人や保育園児の参加を得られている他、自治会長等と話し合わせ緊急時の連絡網の作成や事業所を地域の避難場所として提供されるなど、災害時の地域との協力体制を築いておられ、評価を活かして改善に取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念と基本方針をホームに掲示している。名刺サイズに印刷したものを名刺に入れ携帯し、常に方針に即した介護が出来ているか自己評価出来るようにしている。朝礼で唱和し、意識の徹底に努めている。グループホーム独自に「しっかり見つめ、理解できるように話しかける」も目標に掲げ支援している。	全職員で話し合い、新たに「きがるに誰でもいらしてね、ららら元気に生きていく、く楽を共にみんな仲良く、え顔あふれて喜びいっぱい、みんなの喜樂園」という事業所独自の理念を作成し、法人の理念と共に事業所内に掲示している。朝礼時に唱和し、日常業務の中でも話し合って確認し、共有して、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の小中・高校生に、ボランティアや職場体験・訪問などで交流している。月1回サロンコンサートやOKIRAKU喫茶を開催し、地域の方にも来て頂き交流を図っている。また、バイキング料理を企画し地域の方も呼びびして喜樂園の食事を味わっていただいた。植栽も自治会の方から声をかけていただき、植えて頂いた。	自治会に加入し、利用者は自治会の敬老会に参加している。小学校の学習発表会に利用者と職員は一緒に出かけている。法人の月1回のサロンコンサートや月1回のOKIRAKU喫茶に地域の人の参加があり、交流している。年1回の法人の祭りには地域の人の屋台の出店があり、子ども達や地域の人と交流している。ボランティア(ギター、尺八、三味線の演奏、フラダンスなど)の来訪がある他、小、中学生、高校生の来訪がある。通学時の児童と朝夕の挨拶を交わしている他、散歩時に近所の人達と挨拶を交わしている。地域の人が畑づくりの手伝いに来訪したり、野菜や花の差し入れがあるなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サロンコンサートに来ていただいたとき、福祉の豆知識として、認知症について等話をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価は運営者・管理者・職員ともに園の実践状況を客観的に把握出来る機会ととらえ、日常のケア業務の振り返りを行っている。外部評価結果や、改善策もミーティングで検討し改善に向けた取り組みをしている。	評価の意義を職員に説明し、全職員が自己評価をするための書類に記入して、リーダーがまとめている。職員は日々のケアの振り返りと捉えている。前回の評価結果を受けて目標達成計画を立て、火災や水害時の避難訓練を地域の人や保育園の参加を得て実施している他、緊急時の連絡網を作成しているなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進鍵を開催し、日々の活動の写真を取り入れた資料を作成し取り組み内容を報告している。また、地域の要望など意見を交換し、地域の行事への参加・施設行事への参加など日々の実践に反映させるようにしている。3月末の会議では、普段の昼食試食を企画している。	年6回、特別養護老人ホームと合同で開催している。グループホームの経過、利用者状況、活動状況、インシデント、事故報告書の提出状況、防災訓練、外部評価の結果等について報告し、警察署長の講話、行事食について話し合いを行い、意見をサービス向上に活かしている。	・議事録の工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービスに関する内容や介護保険制度等、市担当者と連携を図るようにしている。サロンコンサートや行事のパフレット等を毎回担当者へお渡しし、また町が窓口の地域の有線放送にて行事案内を放送していただいている。今後さらに協力関係を築きサービス向上に努めていきたい。地域ケア会議に参加し、情報の交換に努めている。	市担当課とは、運営推進会議の他、申請手続きや行事案内のチラシを持参し、相談や情報交換をして協力関係を築いている。地域包括支援センターとは、運営推進会議時に研修内容やインシデント、事故報告に対しての助言を得ている他、地域ケア会議出席時に相談や情報交換をして、連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修や月1回のミーティングにて、施錠しないケアの大切さやスピーチロックや身体拘束についての話し合いを行っている。玄関の施錠も含め拘束しない介護に取り組んでいる。特に言葉掛けには、気づいた職員がお互いに声を掛け合い注意している。	外部研修や法人研修で身体拘束について学び、職員は理解をしている。玄関は施錠せず、外出したい利用者と職員が一緒に出かけられている。スピーチロックについては、管理者が指導している他、職員同士でも話し合いをしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修でも、ミーティングでも話し合い、意見交換もし、虐待防止について理解を深めている。 対応の仕方や言葉使いに気を付け、入居者様の表情や発言など、些細な変化を見逃さないようにしている。 職員の価値観や思い込みで対応しないなど、虐待・拘束が起こらないよう努力している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の中に成年後見制度を利用されている方はいないが、外部研修において学ぶ機会を設けている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・重要事項説明書などをともに丁寧に説明を行い、同意書に署名・捺印を頂くようにしている。疑問点はしっかり答え、理解、納得して頂けるよう努力している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム苦情申し立て窓口を置き、また第三者委員会などを説明していつでも気軽に苦情など申し出て頂ける環境を作っている。また、苦情箱ではなく意見箱を設置している。 入居者様からは、いつでもどの職員にでも言い易い環境を整えるよう気配りをしている。	相談、苦情の受付体制、第三者委員、処理手続きについて契約時に家族に説明している。玄関に意見箱を設置している。面会時や運営推進会議時、年2回の家族との食事会、事業所だより送付時、電話等で家族の意見や要望を聞く機会を設けている。ケアに関しての要望等は反映しているが、運営に反映するまでの意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に1回面談を行い意見を聞く機会を設けている。また、毎月のミーティング・毎日の朝礼で意見が出やすい環境を作っている。また、管理者の携帯は、いつでも気軽に連絡が取れるようにしている。	管理者は月1回のミーティング時や朝礼時、6ヶ月毎の面会時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中でも聞いている。利用者の楽しみごとの場面づくりとして、卓球台購入の提案があり、購入するなど反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談などの機会を持ち、その時の意見や提案を参考にし、向上心を持って働ける職場環境の整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に関しては、勤務調整して受講しやすい環境を作っている。研修に関しては、情報はすべて回覧し職員に伝え、希望者はできる限り研修受講してもらっている。法人全体で必要時にはいつでも、経験年数の長い職員が個別の指導を行っている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命し、資料は回覧して共有している。法人研修は、月2回、同じテーマ(接遇、虐待、ヒヤリハット、コンプライアンス等)で実施し、全職員が参加している。内部研修は、月1回、事故報告の事例検討や応急手当、外部研修の復命等について実施している。資格習得の支援をしている。山口県宅老所、グループホーム協会の研修に参加している。職員は、日常業務の中で介護技術の習得に取り組むなど、働きながら学べる様に支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会などの研修に参加し、同業者との交流の機会を設けている。今年度は、他施設見学にも行き、また他施設からの見学もあった。今後もサービスの質を向上できるよう情報交換したい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、ご本人の話をゆっくり、しっかり聞くことを心がけ、入居への大きな環境変化を最小限に抑え生活に馴染めるよう関係作りに努めている。不安のある利用者へは個別に対応し、日々しっかり観察し生活上の困っていることを把握するよう努め、安心して生活して頂けるよう図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族との話し合いを持ち、施設の方針等を理解して頂き、困っていること、不安なこと、要望などを聞きながら、ケアプランに反映する事により相互の信頼関係を築くように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の要望をしっかりと受け止め、見極めることは難しいが一つひとつ確認し合いながら、話を進めている。言葉のすれ違いがないよう細かい所まで話し合うよう努力している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の出来ることは一緒に行い、洗濯物たたみ、おやつ作り、料理作りでは職員が教えていただいたり、意見を言い合ったりなど、支え合いの関係を築き、信頼関係が生まれてきている。昼食と夕食は、職員と一緒に会話を楽しんでいる。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際に、ご家族に本人の状態をしっかりと話す事を心掛けている。12月には、クリスマス・忘年会を行い、入居者様、ご家族様、職員と一緒に過ごし、絆を大切にしている。 月1回請求書を送る際、グループホーム新聞と担当職員がご本人の様子を書いた手紙を添えている。 また、100歳を迎える入居者様のお祝いの会にご家族を招待し、お祝い膳を皆で囲んでお祝いをした。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会ではできる限り制限せず、本人と家族や知人との外出の機会を多く作り、入居前からの習慣の継続や社会との繋がりを大切にしている。面会に来られた方やご家族にお礼の手紙を書いて関係が途切れないように支援している。 外出企画では、ご本人の馴染みの場所や行きたい所を話し合い、考慮し、行き先を決定している。	親戚の人、友人、知人の来訪がある他、自宅周辺や思い出の場所へのドライブ、馴染みの店での買い物、電話や手紙、年賀状、暑中見舞い状を出す支援をしている。家族の協力を得ての外出、外泊、墓参り、法事への出席など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性を考慮した外出や趣味活動を通じお互いの協力、支え合うよう支援し、生活にメリハリを持たせるようにしている。 食事の盛り付けなど入居者様同士で話し合いをして決めることも多い。 また、共同生活室で座る位置も、入居者様の性格や相性等考慮し、ソファを置く位置も互いに関わりが持てるよう工夫している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退去されたご家族に施設での行事の案内や入居時の写真なども送り、関係性を大切にするよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員とケアマネが、ご本人の意向や思いをくみ取るよう努め、そして希望や気持ちを受け止めて支援内容に活かすよう取り組んでいる。本人の希望を中心とした暮らしが出来るよう柔軟に対応出来る努めている。	入居時のアセスメントの活用している他、日々の関わりの中での利用者の行動や表情、会話などで気づいたことは「経過記録表」に記録するように努め、本人の思いや意向の把握に努めている。困難な場合は職員間で話し合いをして、本人本位に検討している。	・記録の工夫
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談の際にご家族より、生活歴や暮らしぶりの把握に努め、居室内に装飾や生活習慣等、本人らしさを残すことを大切にしている。入居後も出来るだけ情報収集するよう努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にあセスメントを行い、一人ひとりの一日の暮らしや生活リズムを把握するよう努めている。 また、ケアプランの内容を実施し、適切に支援出来ているかモニタリングしていくことにも努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の思いを基に、ご家族様からの意見を聞き、職員が入居者様の現状を把握すると共に、カンファレンスを通じて問題点や改善点を話し合い、介護計画を作成している。	計画作成担当者、リーダー、利用者を担当する職員を中心に月1回、カンファレンスを開催し、本人の思いや家族の要望、主治医、看護師、作業療法士等、関係者の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎の見直しをしている。利用者の要望や状態の変化に応じて、その都度現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃からの暮らしの様子や、食事、排泄等介護記録、経過記録等に記入している。職員の気付きは連絡帳を通じ、職員間で情報交換、共有している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況・要望を取り入れ、買い物等の外出には、その日のご本人の気分によつてのニーズに柔軟に、臨機応変に、対応できるよう職員間で話し合いをして支援している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を中心に、地域との情報交換が広がっている。近隣スーパーへの買い物や飲食店への外食など活用し、馴染みの関係を維持し、新たな関係作りにも取り組んでいる。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望を聞き、事業所の協力医のほか、ご本人が望む医療が受けられるようにしている。内科以外では、ご家族と相談しながら、本人に適切な病院での受診ができるよう配慮している。	本人、家族の希望するかかりつけ医とし、他科受診を含めて家族の協力を得て受診の支援をしている。受診時には情報用紙を手渡している。受診結果は家族に伝え、「医療情報」にファイルして職員間で共有している。緊急時にはかかりつけ医に連絡し、支持を得ているなど、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、入居者様の変化を見逃さないように気を付けている。気になることや変化があった場合には、併設施設の看護師に相談したり、主治医に連絡し、医療機関への受診をしたり、早めの対応に心掛けている。 健康管理として、バイタルチェックや食事摂取量・水分摂取量・排便状況のチェックを介護職員で行っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の備えとして、町内にある総合病院の地域連携室との連絡体制をとっている。 また、入院中の入居者様に面会した上で、病院関係者と情報交換を行い、現状把握して、退院後のケアが効果的に出来るよう努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアについては、ご本人ご家族が最後に何を望むか、しっかり確認し、意思統一を図りながら支援できるような体制を整えていきたい。各医療機関とも密に連携を取れるよう、体制は整えている。	契約時に事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族や主治医、法人の看護師等と話し合い、医療機関や他施設への移設も含めて方針を共有して、支援に取り組むこととしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	「全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の実施」を目標に取り組んでいる。併設施設の看護師や施設主任などによる研修を数回行い、実践力を身につけるよう努力している。	発生した場合は、その場の職員で原因と対応策を話し合い、ヒヤリハット、事故報告書に記録して、翌日の朝礼時に報告し、全職員で共有している。月1回のミーティング時に再検討して、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。内部研修で、法人看護師を講師として、骨折や誤嚥などの初期対応や応急手当の訓練を実施している。	・全職員による応急手当や初期対応の定期訓練の継続

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急対応マニュアルを整備し、地域の方を交えて避難訓練を行い、消火器の使用方法や入居者様の救出方法等学び、災害発生時の連絡体制を確立した。	年2回、消防署の協力を得て、法人全体で昼夜間想定防災訓練(水害、火災等)を地域の人や保育園児などの参加を得て実施している。事業所独自の火災時の通報訓練を年1回実施している。緊急時の連絡体制について自治会長と話し合い、連絡網を作成している他、災害時には事業所を自治会の避難場所として提供するなど、地域との協力体制を築いている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念をホームに掲示している。名刺サイズに印刷した名札に入れていつも見れるようにしている。 接遇や守秘義務、コンプライアンスについても内部研修を行い理解を深めている。	職員は法人研修で学び、一人ひとりの人権を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報の取り扱いや守秘義務については、新人研修や法人研修で学び理解している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員本位ではなく、いろいろな場面で、ご本人が選択することのできる言葉掛けを心掛けている。その日のおかずに対してパンかご飯を選んで頂いたり、入浴の時間を変更したり、自己決定できるようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間は決まっているが、入居者様に無理強いするのではなく、その人にあったペースで支援するよう努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用される方が多く、ご本人様の希望に添えるよう、また、馴染みの関係が築けるよう支援している。毎朝髪をとき、身だしなみを整えている。毎朝洋服選びは、職員と一緒に選んでいる方もいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、テーブル拭き等それぞれの人ができることをして頂いている。 盛り付けでは、どれをどのお皿に盛り付けするときれいかなど職員と入居者様が話し合いながらしている。	三食とも法人からの配食を利用し、ソフト食や形状の工夫をして提供している。利用者は盛り付け、下膳、後片付けなど出来ることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じ食卓で同じ物を食べながらゆっくりと食事をしている。月1回の調理の日には利用者の好みを聞き、利用者と職員と一緒に献立を作成し、食材の買い物に行き、収穫した野菜を使ってゴーヤの佃煮やけんちょう、酢の物、豚汁、かに玉、ミネストローネ、きのこの炊き込み御飯などをつくっている。月1回のおやつづくり(みたらし団子、ホットケーキ、おはぎ、豆乳プリン、リンゴのコンポート、甘酒など)、季節の行事食(正月、節分、雛祭り、ハロウィン、敬老会など)、魚の解体ショー、好みのネタでのにぎり寿司、松花堂弁当、事業所の年1回の外食、家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は委託しており、併設施設の栄養士がバランス等管理している。 入居者様一人ひとりに合わせ、状態を把握し、食事量や形状など工夫している。 食事量・水分量は記録し、水分が少ない方には摂りやすいようにお茶をゼラチンで固めた、お茶ゼリーを提供している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに声かけを行い、出来る限り職員見守りの中、ご自分で歯を磨いて頂いている。また、磨き残しや、ご自分でできない方は職員が口腔ケアを行い清潔保持に努めている。協力歯科医による研修も行った。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表により、一人ひとりの排泄パターンを把握し、個別に声掛けをし、トイレ誘導を行っている。	排泄チェック表を活用して、一人ひとりのパターンや習慣を把握して、言葉かけの工夫や誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況はチェック表で確認し、把握している。職員が状況を見ながら、水分補給を促したり、適度な運動をしたり工夫している。また、食事には乳製品を取り入れており、週1回のヤクルト販売も利用している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴に関しては、曜日や時間を決め対応しているが、ご本人の希望があれば随時入浴して頂いている。温泉とマイクロバブルでの入浴を楽しみにされている方も多い。	入浴は毎日、14時から16時までの間可能で、利用者の希望や体調に合わせて入浴できるよう支援をしている。シャワー浴や清拭、足浴の支援をしている他、温泉やマイクロバブルでの入浴を楽しむことができる。入浴したくない人には、時間の変更や声かけの工夫をして一人ひとりに応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望や状態に応じ居間のソファや居室のベッドで休息してもらっている。また、安眠できるよう入居前に使われていた馴染みの枕や毛布を持って来て頂いている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧をファイルにして、職員全員が飲まれている薬に対する理解に努めている。臨時薬が出た時は連絡帳に記入し、職員全員に周知している。服薬の際には、一人ひとりの名前、〇〇食後か声にだし、本人様と確認している。口に入れるまで見届け、服薬ミスのないようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや洗濯物たたみ、掃除、畑仕事、料理の盛り付け、カラオケ、塗り絵、折り紙、習字、写経、トランプ、かるた、お手玉、卓球、グランドゴルフ、体操など多くの選択肢を用意し、一人ひとりの好みに合わせた支援ができるようミーティングにて内容検討を行い実践している。	野菜づくり、収穫、おやつづくり、盛り付け、台拭き、調理、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、箸置きづくり、卓球、ぬり絵、折り紙、習字、写経、トランプ、かるた、カラオケ、テレビ視聴、音楽療法、体操、法人のサロンコンサート、OKIRAKU喫茶、季節ごとの行事(餅つき、初詣、正月飾り、豆まき、ひな祭りでの化粧やネイル、ほたる見物、七夕の飾りつけ、ソーメン流し、かき氷づくり、クリスマス会、敬老会、忘年会など)、ボランティア(ギター、三味線、尺八の演奏、フラメンコ、ベリーダンス)との交流など、活躍できる場面づくりをして、楽しみごと、気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、近隣へのドライブ等の外出はご本人の意向を大事にし、柔軟に対応し四季折々の風物に触れる機会を出来るだけ作っている。 また、家族の協力を得て、ご本人の希望を聞き取り、外出・外食など出掛けている。	周辺の散歩、買い物、その日の希望に添ってのドライブ(華山、くすの森、自宅の周辺など)、季節の花見(桜、菜の花、チューリップ、菖蒲、コスモス、紅葉狩り)、初詣(豊田神社)、リンゴ狩り、道の駅(北浦、菊川、西市など)、小学校の学習発表会、豊田文化協会芸能発表大会などの他、家族の協力を得ての外出、外食、墓参り、法事への出席など、戸外に出かけられる支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族との話し合いにより、居室に小遣いを置いて頂き、買い物に出掛けたり、週1回のパンの移動販売、ヤクルトの訪問販売を利用し、一緒に品物を選びながら買い物の支援をしている。 月1回の併設施設で開催されるOKIRAKU喫茶も利用している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて、ご家族と電話で話が出るよう支援したり、手紙、暑中見舞、年賀状などご家族に出している。何度かやり取りをしているうちに今では定期的に届く、家族からの便りを心待ちにしている方もおられる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日居間の温度・湿度をチェックし快適に過ごせるようにしている。 窓を開け空気を入れたり、床暖房やエアコンを使用し、健康的な環境も保つように努めている。	リビングの天井は高く、大きな窓からの陽ざしで明るく落ち着いた空間となっている。窓から通学する小学生の姿が見え、利用者は手を振っている。壁面には利用者と職員が一緒につくったお花紙の羊の絵や習字、ぬり絵、高校生から寄贈された千羽鶴が飾ってある。掲示板には献立表や行事の様子が掲示してある。利用者の編んだレースの花瓶敷きの上に季節の花が生けてあり、温度や湿度、換気などに配慮して、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に本や雑誌コーナーを設け、好きな時に読んで頂けるようにしている。ソファや食卓等、気の合った者同士が近くに居られるよう気を配っている。入居者様ごとのお気に入り場所を把握し、できる限りその場所で過ごせるよう配慮している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で使用していた家具や寝具など思い出のあるものを持って来て頂き、一人ひとりが安心して過ごせる空間にしている。	ダンス、テーブル、椅子、冷蔵庫、サイドボード、収納ボックス、鏡台、テレビ、電気スタンド、萩焼の花瓶、ぬいぐるみ、雑誌などを持ち込み、家族の写真、ぬり絵を飾って、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで廊下や浴室、トイレは手すりがあり、安全に移動できるようにしつつもご本人にできるだけ自分の力を使って頂けるよう支援している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム喜楽園

作成日： 平成 27 年 8 月 6 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全職員が実践力を身に付ける為の事故防止、 応急手当や初期対応の定期的な訓練を更に充 実させる。	全職員で事故防止の取り組み、応急手当や 初期対応ができるようにする。	・事故防止対応委員より、定期的な研修を行 う。 ・月1回ミーティング時に勉強会を開く。	1年
2	5 24	記録の工夫をする。	①本人の意思を尊重した介護に繋げる為、 経過記録に行動や表情、会話など細かく記 録し、本人の思いや意向の把握に努める。 ②研修やミーティングで話し合ったことは、 記録として必ず残す。	・日々の関わりの中での利用者の行動や表 情、会話など気付いたことは細かく記録する。 ・職員間で連携を取り、気づいた時にすぐに記 入できるようにする。 ・議事録は参加できなかった人が解るように、 出来る限り、詳しく書く。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。